

令和6年度 自己評価

令和6年度の園運営を振り返り、自己評価を行いたいと思います。

この甲府の南地区は子どもの多い地域性もあり、保育所型の認定こども園として多様なニーズに対応しながら、地域の子どもの受け入れ先として運営を行ってきました。また、提携園である中町保育園の子ども達は、3歳児からの入園を希望していただいた全家庭を受け入れ、中町保育園卒園後の受け入れ先としての役割もしっかりと機能して参りました。子どもの多い地域というのは影響が大きいかと思いますが、毎年のように市の入所選考後に「入所ができませんでした…」「何とかありませんか…」と入所希望の連絡が入り、安全や定員の関係上お断りしている状況が続いております。

保護者という観点で見ると、今年度は児童相談所や警察を通して家庭内の問題についての連絡や、聞き取りといった案件が複数件みられました。また、教育委員会や小学校、各市町村の子どもの担当者との連携といった部分も多かった1年であったなと感じています。園としては子どもの安全を最優先に考えなければならないので、家庭の情報やありのままの状況をお伝え致しながら連携を図ってまいりました。その他では、一部の保護者対応の難しさや、今後の保護者対応に不安を感じる中で、各ハラスメントやクレーム等々で、園内にて対応しきれない場合や案件に備え、保育の問題やハラスメント・暴力等々に特化した法律事務所と顧問弁護士契約を結ぶ事と致しました。万が一、保護者と園での間に問題が生じた際には、自園の職員が即座に弁護士へと相談できる体制を整え、スムーズに問題解決へと繋がってくれと信じています。

各クラスについてですが、今年度も各クラスの担任の先生方が努力や工夫をしながら1年間なんとかやりきってくれました。近年思うのは、私が園長を始めた頃と比べ、ここ数年は集団生活を行う事が本当に難しい子が増えてきました。県の療育コーディネーターさんから、気になると名前があがる人数も年々増加傾向にあります。国が新たに定めた配置基準では、新基準として4~5歳児の園児25人に対して保育士1人(25:1)という新たな基準が設けられましたが、実際に当園のクラスの様子を見ていると20:3でも良いかなというのが正直な気持ちです。独自に国の配置基準より多めに職員配置は行っておりますが、それでも厳しい状況というのは保護者の皆様にも知らせておきたいと思います。決して全員に当てはまるわけではありませんが、ご家庭での根気強い言い聞かせやお約束といったできる事へのご協力はして欲しいです。私たち保育者は医者ではないので無責任に診断名などを断言できませんし、客観的事実をお伝えしますが、ご家庭で何度約束しても繰り返してしまう＆守れない等の場合は、子どもも苦しい思いをするので療育の観点で各相談窓口へと相談することをお勧めいたします。

行事に関してですが、今年度も昨年度同様に職員代表にて話し合いを行い、それに則り開催して参りました。今年度は大きなテーマを「任天堂」と決め、行事によって時間を変えたり、2部に分けたりしてさまざまな開催方法で取り組んできました。子ども達にとってはどの行事も楽しく参加できたようで、みんな良い顔をしていた事が印象的でした。次年度に向けて新たに工夫を行いながら行事を行ってまいります。大きい行事の日程は年間で記載しておりますので、次年度もしっかりとご確認いただき、参加下さるようお願い致します。

最期に令和7年4月1日に備える保育園の社会福祉法人化についてです。私齋藤が園長になって以来、保育園の社会福祉法人の取得を大きな目標の一つとして保育所の運営を行ってまいりました。令和6年5月より本格的に動き出し、いよいよ次年度の初めから、社会福祉法人という新たな門出をスタート致します。まずは段階的に認定こども園になり、社会福祉法人への移行を行ってまいりましたが、ここまで来るのにはとても長い道のりでした。三月末には法人認可式へと出席して、無事に社会福祉法人として法人運営を開始致します。今後の事業展開も色々と視野に入れてはおりますが、今まで以上に地域の皆さんの社会福祉へと貢献できるよう、より一層邁進してまいりますので何卒変わらぬご支援のほど宜しくお願い致します。

以上、令和6年度自己評価とさせていただきます。